子どもの未来が育つまち

第16回　最終回

グローバル化を目指して英語を身につけよう

ピカピカの子どもの未来が育つまち宗像市。最終回の今回は、英語に触れる子どもたちの笑顔を取材しました。

■問い合わせ先
秘書政策課広報・報道担当
☎（36）1055

海外生活の経験を生かして英会話教室

南郷地区を中心に設立された総合型地域スポーツクラブ・南の郷クラブの文化事業の一つ「英会話教室」が昨年12月6日、南郷コミセンで実施されました。この日参加した生徒は、南郷小学校に通う9人の子どもたち。講師は、13年間、海外で生活していたという須藤精治さん（67歳・南郷）です。

小学校6年生の時に、担任の先生から「ABC」を習い、英語に興味を持ったという須藤さん。民間会社に就職してからは、国際事業部に所属し、さまざまな国に出張しました。退職後、日本でのんびり過ごしていた時に、妻の妙子さんから「経験を生かして、何か他人の役に立つことをしてみたら？」と言われ、「自分の海外生活を楽しく話しながらできることが良いだろう」と英会話教室を始めたそうです。

海外での経験を生かして子どもたちに明るく指導する須藤さん

「子どもたちには、英語能力の向上だけではなく、自分で考えて行動し、相手の気持ちを考えられるようになってほしい」という須藤さん。その教育方針のもと、授業では、さまざまな工夫をしています。

学べるのは英語だけじゃない

授業は、英語で歌を歌ったり、世界地図で海外について学んだり、紙でサッカーボールを作ったりと内容はさまざま。明るく楽しい雰囲気の中、積極的に発言して学ぼうとする子どもたちの姿が見られました。サッカーボール作りでは、設計図を見ながら、紙でどうやってボールの形を作るのか考え、道具を駆使し、みんなで協力して取り組むなど、言語以外でもさまざまなことを学んでいました。

他にも、「白水（しらみず）つつみのいたずらカッパ」や「しろなまずの恩返し」など、宗像の民話の翻訳や、エジプトの象形文字を使っての授業などもあるそうです。

「先生の英語がはっきりと聞き取れないこともあるけれど、なんとなく分かるようになった」という子どもたち。楽しみながら英語をしっかりと学んでいました。

紙でボール作りに挑戦する子どもたち

須藤さんは「子どもたちが、想像以上に熱心に授業を受けるので、びっくりしています。コミュニケーションは、言葉を覚えるだけでなく、自分で考え、自分の言葉できちんと話せることが大切です」と、この教室についての思いを語ってくれました。

バックグラウンドミュージックは全て英語

各コミセンなどで、地域のボランティアが実施している子育てサロン。東郷コミセンで1月21日に開催された「あひるクラブ」では、紙芝居や絵本の読み聞かせの他、3年前から英語の歌遊びを取り入れています。

英語を担当するのは、中学校で英語の教師をしていた西さえ子さん。退職前の6年間は、河東小学校に英語の授業も取り入れ、これを機に市内の全小学校に英語の授業が入りました。現在は、主任児童員として活動しています。

サロンに一歩足を踏み入れると、音楽に合わせて、小さな子どもたちが楽しそうに手をたたいたり踊ったりしている姿が目に飛び込んできます。「ここでは、バックグラウンドミュージックは全て英語です」と西さんが教えてくれました。英語の歌を流して聞かせているので、子どもたちは自然と体と耳で英語を感じているのです。

市内の小学校に英語の授業を取り入れた西さん

英語を感じてコミュニケーションも自然と生まれる空間

サロンでは、手遊びをしながらの英語の歌を多く取り入れています。使っている教材は、西さんが持っているたくさんの海外の絵本。子どもたちは英語版キラキラ星などが大好きで、2歳の子どもはきれいに歌い上げるそうです。

「英語は、小さな子どもの方が言葉ではなく音として捉えるので、とにかく話す前から耳に入れる、聞かせることが大切」と西さんは言います。西さん自身が、中学校から英語を学びリスニングに苦労したので、子どもにはそういう思いをさせたくないという気持ちと、自分の子どもを英語で育てた経験から、実感しているそうです。

「ベースに英語があれば、多言語を覚えるのも早い。今宗像は、海外に向けて、グローバル化を目指して行かなければいけない時期です。これからも、市の英語教育には陰ながら協力したいと思っています」と西さんは話してくれました。

英語の歌に合わせて体を動かします

娘の怜奈ちゃん（3歳）と参加した石川幸子さん（34歳）は、「何度か来ているうちに、覚えたみたいで、歌を口ずさみながら体を動かしています。家で、たまに娘の口から英語が出てきます」と笑いながら話してくれました。その他参加者からは「音楽が大好きなので、よく踊ります」「二人だけだとどうしても煮詰まってしまうので、こういう集まりがあるのは良い」「ここで友人ができ、メール交換もして交流している」など、子どもを英語に触れさせるだけでなく、お母さん同士の交流の場にもなっています。

この日は、年1回の「手作りおやつ」の日。参加者は、体に優しい素材で作られたおやつを食べながら和気あいあい。この教室は、みんなのコミュニケーションが自然と生まれている優しい空間でした。

舞台裏

■新市制10周年記念で、イベントが盛りだくさんだった本年度。広報としての出番も一段と多かった■走り回りながらの取材は大変だったが、人と触れ合う機会が多く、いい経験になった。取材スキルも上がっただろうか…■宗像市の10周年も幕を閉じ、次の10年に向けて再出発。私も、来年度に向けて、心を新たにしたい。（ま）

■先月、梅の花を見にでかけて、きれいな色だけでなく、花の香りがとてもいいことに気がづいた■暖かくなり、あちらこちらで芽吹いてきた、色とりどりの花がとても気になり、足を止めて見るようになった■自然豊かな宗像市を、この春、たくさん感じたいと思い、市内の山々に登ろうと計画中。（ひ）

■以前は敬遠していたイノシシ肉。友人にもらったイノシシ肉のハムを食べ、そのあまりのおいしさに舌鼓■現在市では、農作物被害の減少などを目的に有害鳥獣の駆除を実施■2月1日から販売開始した宗像イノシシ肉「むなっ猪（ちょ）」が、市の新たな特産品となれば、駆除も促進され一石二鳥。楽しみです。（み）

市では、収集した個人情報を、収集の目的以外で利用することはありません。
広報紙は、古紙が配合された紙を使用しています。

広報紙への意見・要望を右記に寄せてください。

▽発行：宗像市　▽住所：〒811-3492　福岡県宗像市東郷1－1－1
▽編集：秘書政策課広報・報道担当　TEL：0940-36-1055　FAX：0940-37-1242
：クロワッサン　メールアドレス：koho@city.munakata.fukuoka.jp
▽印刷：株式会社 西日本新聞印刷